

臨床研究に関するお知らせ (1008)

【研究課題名】

がん化学療法における骨髄抑制に及ぼすデキサメタゾンの影響に関する後方視的調査

【内容】

デキサメタゾンは抗がん薬による悪心・嘔吐に対して有効な薬剤として抗がん薬の投与前後に使用されています。また、デキサメタゾンには白血球・好中球増加作用がありますが、抗がん薬と同時に使用することで、増えた分の白血球、好中球が影響を受けやすいため、抗がん薬による骨髄抑制（白血球減少、好中球減少）を増強する可能性が考えられます。

そこで、がん化学療法における骨髄抑制に及ぼすデキサメタゾンの影響を明らかにするため、過去のカルテ情報をもとに調査研究を行います。

【対象】

2005年1月から2009年12月の期間中に、泌尿器科でMVAC（メソトレキセート、ビンブラスチン、アドリアシン、シスプラチン）療法を受けた方が対象となります。

【方法】

カルテ情報の調査を行い、白血球数、好中球数の推移と、デキサメタゾンの使用の有無・投与量の間関係を調査します。

参加を希望されない場合には、2011年8月31日までに金沢大学附属病院薬剤部 崔（さい）までお知らせください。

2011年1月
金沢大学附属病院薬剤部
研究実施責任者 崔 吉道
電話 076-265-2046